

# 日本の産学官連携に関する一考察 —国立大学における大学発 ベンチャー増加への取り組み—

---

河合 紗莉亜

## 【要 旨】

本論文では日本の大学の産学官連携に焦点を当て日本の大学がより産学官連携の成果を発揮できるようにどのような取り組みを行っているかを調査し、考察したものである。

第二章では産学官連携の歴史を論じ、第三章では国が発表している資料や書籍をもとにこれまでの成果を分析している。第四章からは国が発表している産学官連携の今後の計画を示す科学技術基本計画を分析したのち、産学官連携が今後さらに成果を発揮するためにはベンチャー企業の創出が不可欠であり、ベンチャー創出に向けてして三つの要素が必要であると導いた。

そして、第五章からは実際に旧帝大で実施されている三つの要素を満たす取り組みを各旧帝大ごとに調査し、それぞれの利点と欠点を提示している。

最後に、終わりにでは第四章までに導いたことを参考に日本の国立大学にはどのようなベンチャー創出のために必要な三つの要素を満たす取り組みが必要であるかを論じている。

## 【講 評】

本論文は、現在の日本社会において重要なテーマとなっている産官学連携の問題を取り上げ、その現状と課題を検証した意欲作である。これまで日本の大学は、産業界との連携についての意識が弱く、いわゆる「象牙の塔」と呼ばれる閉鎖的な体質が指摘されてきた。また産業界もそうした日本の大学を連携のパートナーとしては見ておらず、むしろ海外の大学との連携に熱心であった。本論文では、こうした現状が日本の将来にとって好ましくないとの問題意識から当該研究課題に取り組んでおり、優れた問題意識を有しているといえる。

本論文では、日本を代表する7つの研究大学の取り組みを取り上げ、大学発ベンチャーの現状について詳しく分析している。こうした事例分析においては、単なる事例の紹介のみで終わってしまう場合も多々、見受けられるが、本論文では「共創」「場」など難解な理論的枠組みを用いて、事象を理論的に説明することを試みており、卒業論文として高い水準にあるといえる。